

# 第22回 都市景観フォーラム 記録集

## ■ 基調講演:「よこすか再発見～まちの個性の探し方・活かし方～」

最勝寺 靖彦さん/TERA歴史景観研究室代表

## ■ パネルディスカッション:

「よこすか再発見～伝えよう谷戸の魅力とまちづくり～」

コーディネーター:

昌子 住江さん/NPO法人アクションおっぱま理事長

パネリスト:

廣崎 勝裕さん/汐入町五丁目二区町内会長

河合 麻衣さん/エトワール経営

阿部 将大さん/神奈川県立保健福祉大学生

最勝寺 靖彦さん/TERA歴史景観研究室代表

主催:よこすか都市景観協議会

---

問合せ先:事務局(横須賀市都市部市街地整備景観課内)TEL 046-822-8377

## 第22回都市景観フォーラム記録集

### ■フォーラム概要

名称：第22回都市景観フォーラム  
テーマ：よこすか再発見～伝えよう谷戸の魅力とまちづくり～  
日時：平成29年2月12日(日) 13時開場 13時30分開演  
会場：ヴェルクよこすか 6Fホール  
参加者：180名

### ■プログラム

13:30 開会

主催者挨拶：増田 務 / よこすか都市景観協議会会長  
共催者挨拶：田神 明 / 横須賀市副市長

13:40 「第1回すかまち景観デザイン賞」授賞式

受賞景観  
景観デザイン部門  
富士山ビューポイント部門

14:15 基調講演

最勝寺 靖彦さん / TERA歴史景観研究室代表  
テーマ：よこすか再発見～まちの個性の探し方・活かし方～



最勝寺 靖彦さん

15:15 休憩

15:30 パネルディスカッション

コーディネーター  
昌子 住江さん / NPO法人アクションおっぱま理事長



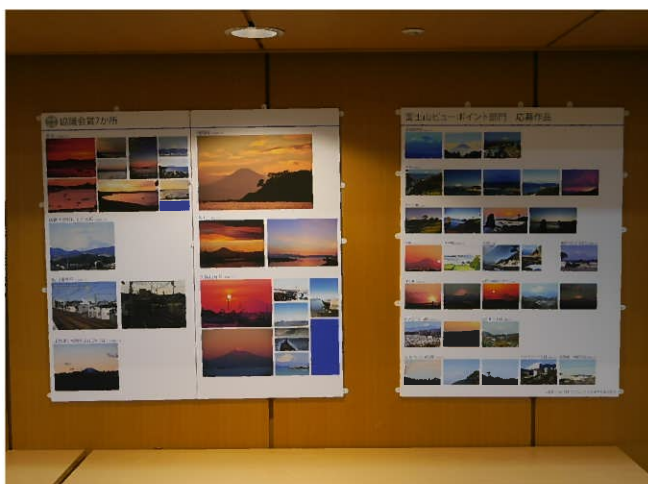
昌子 住江さん

パネリスト  
廣崎 勝裕さん / 汐入町五丁目二区町内会長  
河合 麻衣さん / エトワール経営  
阿部 将大さん / 神奈川県立保健福祉大学生  
最勝寺 靖彦さん / TERA歴史景観研究室代表

17:00 終了

※本書は、フォーラムの内容を記録としてまとめたもので、報告書の内容は事務局の文責で編集したものです。

■会場風景



■パネルディスカッション



■「第1回すかまち景観デザイン賞」授賞式



■主催者挨拶



■共催者挨拶



## 基調講演

『よこすか再発見

～まちの個性の探し方・活かし方～』

最勝寺靖彦さん（TERA歴史景観研究室代表）

○最勝寺氏 今ご紹介いただきました最勝寺でございます。（拍手）

第22回都市景観フォーラムおめでとうございます。時間が押してしまったので、最初の話を取り急ぎ行うということですので、主にスライドをやりませう。

早速ですが皆さん、このような言葉を知っていますか。土の人、風の人、水の人という言葉があります。これはまちづくりの一つの考え方です。あるいは考え方の一つです。

土の人というのは何かというと、地元の皆さんです。ここでは谷戸の皆さんになってきます。

風の人というのは外から来た人です。何も知らない人です。あるいはまちづくりで訪ねてきた私のような人です。風の人とは外から来たのですから、ぱあー、と来て、ふー、と風を吹かすと、そこに今まで隠れていた芽が見えます。こんな芽があるのかという思いがけない発想があります。

ところがとんでもないことを言うことがあります。たとえば谷戸では毎日毎日落ち葉で困っているとします。風の方はそれを宝の山だというのです。さらに、このまちは時間がゆっくり流れていいです。というような話をします。ところが、先ほどの土の人は、毎日が忙しくて、そのようなことに気が付きません。

ですから私たち風の方はまちの新しい価値観というか、見方を変えるとこれほどにも違うかと驚くような提案をするのが風の人です。もしそこで、これは面白いということになると、地元の方々が組織力とか、活動力を活かしてどんどんまちづくりをしていくことに

なります。そうするとまちが出来上がってきます。

そして雨の人は何かというと、実はお金のことになります。資金が必要になります。そこで皆さんから集めた募金が必要になったり、あるいは企業の献金が必要になったり、あるいは行政の補助金があるとやっとまちが動きだせるのです。ですから、まちづくりには風の人、外の人の意見が必要になります。

それから一番大事なものですが、土地の人が必要になります。そして少量でいいので、雨が必要となります。それがまちづくりの一つの原則となります。

ですから私のまちづくりというのは、こうしよう、ああしよう、という話はしません。これを作ろうという話もしません。このまちの良いところを見つけることから始めます。本日は、そのような話を、いわゆる風の話として、これから谷戸の姿を一つ一つ紹介していきます。

まず、スライドを見ていきたいと思ひます。ではスライドをお願いします。緑がありますね。



これが谷戸の緑で、山ですね。里山といひますか、山が入り組んでいます。この谷戸はすごく深いです。ここは泥岩でできていて、水の力、川の力ですごく掘り下げられてしまうのです。これが花崗岩だと浅いですが、このようにひだのように深くなったのが、この谷戸の特徴です。ですから、どうしても階段がきつくなります。

それから海があります。実はこの谷戸の緑はすごく大事で、ここからずっと新鮮な空気が作られます。人間でいえば肺みたいなものです。それからずっとまちに送られてくるわけです。風を送るわけです。海は心臓ですね。山から流れた清らかな水が流れて行って、まちを浮浪して海の中に入っていきます。

私はこのようなまちに住んでいません。東京のど真ん中ですから、遥か彼方に海があります。山も遥か彼方にあります。こうやって肺があって心臓があって、きれいな水が山によって流されている、こういう健康的なまちに住んだことがないですね。おそらく、このまちの人はすごく健康的だと思います。そして、このことを利用しないと、このまちは個性を失うのではないかと思います。まず前提にこのことをお話しします。

次に、私は外の人で全部は歩けないものですから、たまたまこのルートを歩かせていただきました。これは1月24日よこすか都市景観協議会の皆さんと里歩きをしました。そしてこのときは博物館の山本さんに緑地の案内をしていただきました。谷道を歩いて坂道を歩いて、尾根道を歩きました。戻りまして、浦賀道も歩きました。やはり浦賀道を歩くとこの辺がよくわかります。そんな話を順次やっていきたいと思います。スライドは基本的にはこのまち歩きルートの順番で流れていきます。

次(01)お願いします。これは私が見た中で山の部分です。ここ(01-01)が緑ですね。この緑がなくなると大変なことになります。つまり、私たちはいつも緑を見ることによって、心にやすらぎあるとともに、ここが連担してきますとまちのかたまりが薄れていきます。もっと大事な話をします。日本で一番高い杉林を見たことがあります。良い木が取れるのです。その山は頂きから二合目までは雑木林です。この下に



杉を植えます。どうしてかという雑木は保水力が高く、根も横に生えているから土を丈夫にします。それから水を十分すって、ゆっくり吐きます。この山は土も水も上の雑木林に守られて下に良い杉が出来ます。ここが(01-02)杉林だと思ってください。この木がなくなってしまうと、このまちは豊かではなくなってしまう。この領域は神様の山です。ただここを見ますと雑木林と常緑樹があります。たぶん雑木林は、適当に人が住むことによって、森が豊かになります。色々な木があるということは、色々鳥がいて、色々な虫がいることですから、この土壌は強くなります。そう考えてください。

次(02)お願いします。私は民家の研究者ですから、ここを見たときびっくりしました。いわゆる谷道に入る直前のところが、これを店



蔵と言います。全部土でできている土蔵がでてきます。

こういうのは少ないので驚きました。

それで皆さん、次(03)のここ(03-01)を  
見てください。この戸袋はすごく厚いです。なぜ厚い



かご存知  
ですか。  
この扉が  
全部土の  
戸で一枚  
一枚厚く  
なるから  
です。こ  
こが厚い  
砂岩かな  
んかの、  
溶解石で

す。大谷石の奥行が非常に深いのがあれば、店蔵だと思  
ってくれて結構です。

次(04)お願いします。出桁、出梁建築と言われ  
る、ここに(04-01)特徴があります。2階の両  
側に戸袋があり、この辺に扉があるのが特徴です。それ

から1階は  
庇(04-0  
2)がちょ  
と飛び出  
します。30~90センチ  
くらい飛び  
出します。これ  
を関東型と言  
います。関西  
型ではここは  
飛び出さな



いです。真ん中に虫小窓というものがあります。これは  
関東型の代表です。



それともう一つ見ましょう。次(05)お願いま  
す。ほんとはこの桁がこの〇のあたりまで(05-  
01)出ていると出桁と言います。これは出梁だけにな  
ります。少し出桁風です。ですから出桁風の出梁と思  
ってください。この辺が面白いと思って見せてもら  
いました。そしてこういう風な店蔵や出桁出梁造りが  
あるところは基本的には商店です。おそらくここは商  
店街だったと思います。

次(06)お願いします。ちゃんと商店街がありま  
す。今やこれは食料品店だけです。なんでも屋で、今



でいうコンビニです。昔は八百屋さんがあって、魚屋  
さんがあって、肉屋さんがあったと思われま  
す。それから、豆腐とか納豆とかシジミとか、自転車で毎朝来  
たと思いますね。その風景はもはや見えなくなってお

ります。

次(07)お願いします。これが谷戸のメインストリートになります。ほんとはここに商店がいくつかあったと思います。今やなくなっております。見えにくいですがこの奥のほうにさっき言った出桁の建物があり



ります。これで商店街だとわかります。

そしてこの道を見てください。昔はそんな広くなかったと思います。右側に拡張したのだと思います。で

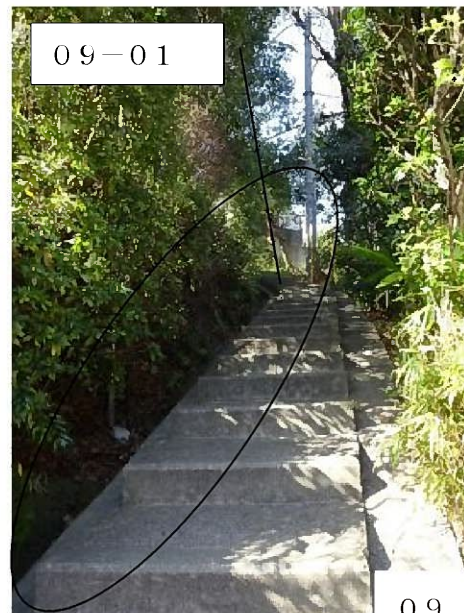
すから新しく車が通れるようになって、車庫があります。時代の推移がわかると思います。必ず商店街というのは谷道になっております。一番低いところですから両側は普通川になります。ここに蓋をしてよく商店街になります。東京の古い商店街はみんな川の上です。どぶ板もそうです。ところがマンホールの数数を数えるとここはそうではないので不思議に思っている。

次(08)いってください。商店街の先をもっと見てください。元々川だと思います。○のところ(08-01)は暗渠になっていますね。今は道路になっています。暗渠ファンは多いです。暗渠ファンになるには探し方のテクニックを教えます。どこ見ても右も左も高い、右高い低い、一番低いところに川が流れます。それからここは蛇行しています。川がまっすぐなのは少ないですね。川が流れますから必ずどちらかが低いです。そんなところが暗渠です。

さらに見ますとこの崖にケヤキが立っています。ケヤキというのは崖地に強く、湿地に強いです。これです。間違いなく暗渠だと思

います。市のかた、業者の方はご存じだと思いますが暗渠になっています。

次(09)行きます。さてここはそろそろ坂になります。ここが気に入りまして、ちょっとコースから外れましたが、行く度に寄ります。この幅は良いです。車のことを考えると大変だと思いますが、景観のこと



を考えると良いです。なぜ良いかという細くてなだらかなのです。おそらくケヤキが15センチくらいで、こちらが45センチくらいあると思います。

併せて60センチくらいですから、程よく歩けるところです。細さはどうやって決まるかというと、なるべく細いほうが自然には良いのです。自然に無理はしないで、土

地を改変していません。だからそれなりに作ります。ですから地崩れは起こしづらい。今宅地で土地が勢いよく流れてしまうところがあります。そのようなところは無理して造成してしまうのです。それがないので、私はこれは自然と仲良くした造成で良いと思います。

この幅は何で決まるかという、だいたい90°です。人間の肩幅は45°ですから、無理なく擦れ違える限度になります。○側(09-01)がドブになっています。たぶん自転車を通すのには良いです。あるいは荷物車を通すのに良いです。そんな感じがします。水がどぶ側に流れるよう、階段に勾配をつけなければなりません。そうしないと水があちらこちらに行ってしまう。

次(10)お願いします。さらにこれはうねっていて、地形をそのまま大事にしているものだと思います。じつは階段の傾斜が互い違いになっています。○側(10-01)に流れるような傾斜をつけると、崖崩れが起こります。困ったことになります。こちらに側溝を作れば



いいのですが、作っていかないとここは水が全部降りてきます。また山側に階段の傾斜をつけると水が溜まって

しまいます。

山道を僕たちが作る時はこのような具合に互い違いにして、水を拡散することで、急流を防ぎます。そういう試みを昔の階段はあったと思います。だんだん

その辺がおろそかになっているのが現状です。

次(11)行きましょうか。先程の道を上るとこのようなお屋敷があります。建築好きなので紹介させていただきますが、これはこのような柱が矢印(11-01)のよう



にあってこれは歌舞伎門と言います。それだけで昔は武士階級のように見えました。今は時代が時代ですから、この方が武

士かどうかはわかりません。それに屋根が付きます。屋根があつて腕が付いて柱を支えます。腕木門と言います。歌舞伎門の腕木門によって屋根を支えています。まず歌舞伎門で、何が言いたいかというと、このまちは下より上に上がったほうに先住者がいたのかなと思いましたが。そのため山の上のほうから開発されていったのかなと思いましたが。そんな感じがします。

次(12)お願いします。これは、ずっと坂道を上





った終わりです。緑の山になっています。これは照葉樹林ですね。一番上を緑で守るといのは先ほど言ったように、すごく大事な原則で、ここは守っていいなと思っております。そういうものがありこの坂が好きです。おそらくそのような秩序がしっかりされていて、だんだん奥に入っていく雰囲気があり、不便だと思ふこともあるかもしれませんが、住んでいる方は自慢だと思ひます。

次(13)行きましよう。先ほどの少し見えた山の上があります。ちょっと今は枯草や、枯れている木があります。この木を見ていると何の木だかわかりますか。常緑樹で冬も枯れない木です。これを照葉樹林



と言ひます。照葉樹林文化論なんて一時期はやりましたが、これと同じ風景がブータンにあります。ブータンから雲南省を通つて、日本に照葉樹林が来ています。

照葉樹林がどのようなのかという和樁みたいなのをイメージしてもらつていいです。少し葉っぱが広くて厚いです。そういう木です。こんもりしています。ブータンに行くとそっくりです。雲南省でも。ここにね、共通な文化があるのではないかと一生懸命研究し発表された方がいて、照葉樹林文化論と言ひました。今から30~40年前にすごく流行りました。その風景を見ることができたので、すごくびっくりしました。

(13)の山の木はタブノキです。スタジイが多い

のですがタブノキです。たとえば奈良のあたりは全部そうでした。ところがだんだん変わつてしまつて、今はなくなつて春日山くらいになつてしまいました。そしてあと残つているのが鎮守の森です。これが奈良あたりの関西の鎮守の姿です。ですから僕はこの山に鎮守、神社があるのかなと思ひましたが、ありませんでした。またスタジイでない理由がなにかという、タブノキは塩水に強いからです。そのためこの環境でも育ちます。そして全部戦つていくとこれが残り最終形になります。緑の最終形。これが三浦半島の風景なのです。この照葉樹林があるのが三浦半島になります。これをなくさなければ、故郷はいつまでも残ります。これを失つると20年後帰つてきたときがっかりします。故郷がなくなつてしまひます。ですから、三浦半島は緑のアイデンティティーです。



次(14)行きましようか。土手を見ました。専門家ではないので山本さんに聞いたらヤブソテツというそうです。これは海の近くにあるシダ科だそうです。常緑樹です。私たちが行つたのは冬ですから、すべて緑は常緑樹だと思つてください。良く海の近くの崖地に多いそうです。もう少し見ようということで、もつと崖地を見てみました。これです、これがヤブソテツの種類で、オニヤブソテツだと思ひます。

次(15)行ってください。○(15-01)が何かわかりますか。八百屋さんで見えるものです。アシタバです。雑草みたいに強くて、明日行くとまたなっているということで、アシタバというようです。大島に



行ったとき、アシタバすごく多かったです。ここは大島かと思ってしまいました。八丈島も多いそうです。もしかすると昔は大島とは、一つの地がつながっていたかもしれません。大島にありますから、塩に強いわけです。水仙もそうですが、どのようなことかと言うと、さっき呼吸しているという話をしましたが、山に生えているだけではないのです。これは息を吸っているほうで育っているわけで、皆さんも自然に潮風を吸っているのと同じです。アシタバは、もちろんおひたしにして食べるとおいしいですし、てんぷらもおいしいです。これはちょっと違いますが、ハコベがたくさんありました。七草はだいぶあると思います。皆さんで春の七草を八百屋さんで買うのもいいですが、自分で採ってお食事会をするのもいいと思います。12月全部お食事会ができると思います。そんなことができると楽しいのが里山だと思います。

次(16)行きましょうか。水仙です。水仙は頑張り屋さんです。おそらくどの土手にもこの谷戸に行くと水仙があります。今ちょうど花が咲いてきれいです。これは大変努力家で、地中海から来ました。スペイン

とかに行くところと色々なところがあります。海の植物で、塩水に強いです。地中海にあってもおかしくないですし、ここも地中海に似てい



ます。ですからいっぱい咲くのでしょうし、シルクロードを渡って一生懸命歩いて、お休みをしているわけです。やっとわが地を得たと、頑張りすぎるくらいたくさん咲いていて、多すぎだと嫌がる人がいるくらいあります。皆さんシルクロードの旅を考えられるといいと思います。

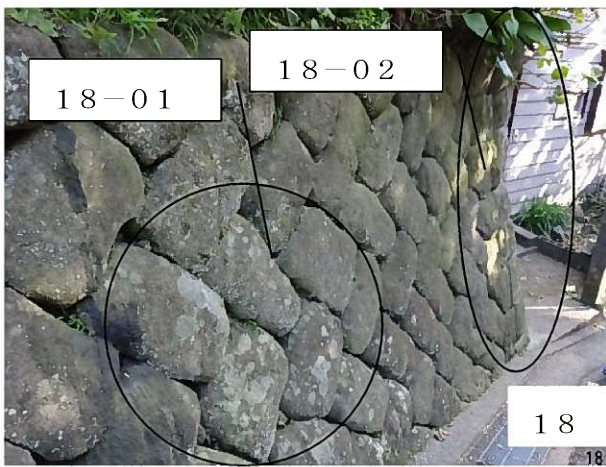
次(17)お話しします。やっぱり谷戸を歩くと石垣が多いです。これはブラブ積みと言います。私も初めて見て驚きました。これは横浜からこのあたりまでに多い積み方です。明治以降にできたものです。ブラ



ブ積みの特徴は何かというと、普通のこのような石を全部このようにずっと並べていきます。長い石の間に

(17-01) 小さな石が見えます。石の断面方向、こちらを見せます。このような積み方をします。これは煉瓦でよく見ますが、こうやって交互に積む方法がフランス積みです。ちなみに長手方向を積んで、次の段に小口を見せる方法がイギリス式です。もしかしてここは海軍さんが来てフランス積みをやったのかと思いました。これは推測です。

それからもう一つ見てください。真っ白な石があります。次(18)の石垣でもこういう風についていま



す。植物ですね。ウメノキゴケというそうです。水気が多いところにありますから、下のほうに多くあります(18-01)。それからこの石垣を見てください。丸石を谷に向かって落とす谷落としです。こういう積み方を谷積みといいます。これは珍しいです。このやり方はおそらく相当古いのではないですか。さっきのブラフ積みとこちらの石の積みを見ているとかなり古いと思われています。今歩いた道は古いのではないかと思います。

この写真は見にくいですが、今見たこの写真の○(18-02)は力石です。ここにしっかりおいて中だるみの曲線を作りだします。こうするとここは有名な土地です。皆さんここで有名な道というところどこかわかりますか。浦賀道です。浦賀道はやはりこうやって歴史があるなということを思いました。一つお話を

します。ウメノキゴケは空気のきれいなところにしか生息しないそうです。ですので、ここはすごく空気が良いのです。至るところにウメノキゴケを見ました。ここの空気を吸っている以上、非常に健康だと思えます。

おそらくここの空気は将来売れるかもしれません。僕は若いときにびっくりしたことがあります。今から30年くらい前に水を売っていたのです。今は当たりまえでしょう。確かに水は大事ですが、コーヒーは買うが水は買うのかと思いました。当時、東京の水は塩素が多くてまずかったので、そんなこともあったと思います。次は空気だと思います。ハレー彗星が来るかではなくて、空気が売れる時代が来るかもしれない。ここは率先してそれができるかもしれない。そんな空気を吸える皆さんが幸せだと思います。ここ来たとき、いつも電車で汐入を降りるときにいつも思うのです。空気が違うとほんとに思います。私は池袋に住んでいて、傍には木が多くある場所にはいますが、それでも空気が違います。やはりさっき山の風が、谷川の水が血の流れとなって、呼吸となって息となって私たちを支えてくれる健康なまちだなと思っていました。



さて次(19)行きましょうか。これは同じ道です。ほんとは画面がこれほど大きかったら二つ並べたかったです。何を比べたかという、先ほどの谷の道と坂の道を比べたかったですね。それ

で空気が良いとどういうことが起きるのか話をしたかったのですが、ちょっと二つしか映っていないです。

これを見てください。さっきと同じことです。同じことを繰り返します。もともとこれは台八車が通れるくらいの、3分の2くらいの道だったと思います。そして右側を今は通れるようにしました。ですからここは非常に利便性が高い。さっき副市長さんがおっしゃられたように、駅が近いからここはもっと栄えてもおかしくないというのはよくわかります。車が入って利便性が高くなります。利便性が高くなるとどういったことが起こるかという、自然度が悪くなります。どちらを選ぶか少し考えないといけない。どちらもいいです。良さをどう選択するかだと思います。

次(20)お願いします。先ほどは利便性が高いからこういう道があると年寄りにはつらいです。ですので、年寄りの方々は先ほど言ったように谷道に追いや



ることは良いかもしれません。でもできるだけ頑張ることが大事だと思います。特にこれを選んだのは自然そのものを利用したものです。もともとは民間が作られた道かもしれません。コンクリートがあるから行政の方が作られているのかもしれませんが。見てください。さっき言ったように土の改良をしていませんから、ウメノキゴケができるのは空気がきれいなことと同時にこの里は昔のままの植物が多いそうです。そのためこういうところは外来種が少ないです。どうしても外から来た外来種にやられてしまいましたが、それがなぜかという一つは排気ガスがあります。排気ガスに強い外来種にやられてしまいます。もう一つはこのように土をいじりませ

んから、土の改変がないので、昔のままの植物の土床、つまりはお布団があるのです。そのために昔の風景は植物が育っているのです。本来はこういうところは、昔から住みやすい。人間も住みやすいのです。

次(21)行ってみます。次はご存知の方ですが、そろそろ坂道を上がってきて終点になりました。終点の先に一軒の家があります。



河合さんのエトワールです。週2回の営業です。先端に行くと木造が多いです。それと、廃屋も多いです。どうしても不便なのです。その先端で頑張っているエトワールです。私ここに2度ばかり行きました。河合さんはシンポジウムに出させていただくので、お話しに出ると思います。



では次(22)に中に入ってみましょう。これが中です。ここに行きますと最初はここでパンをいただい

たときに一番感じたことは、時間がゆっくり流れている。なぜでしょうか、何とも言えなく時間がゆっくり流れています。どうしても東京にいますと時間が早く流れてしまう。ここにいますと自分を取り戻している気になって、よかったなと思いました。それと、2度目に行ったときはお年寄りの方が4名お話しをしております。良いですよ。何が良いかという、山の中のこんなお店、行くのが大変ですが、週2回開けて、近所の人とお話しをするための施設かなと思いました。年寄りの方が多かったのでもいいなと思いました。僕はこの先端、つまりこの尾根の先端のところにある、良い理由について話したいと思います。河合さんはいいところに目をつけたと思います。話を聞いていても雑音がなく、そのおかげでお話しが穏やかになります。話が流暢に進むといいですか、小さな声でお話しが出来ていて、僕たちこの間立っていたのですが、全然邪魔にならないです。この騒音のなさも谷戸の魅了です。驚くほど雑音がありません。シーンとしており、一人でいたら心静まるような静かさでした。



次(23)行きましょう。エトワールにあったランプですが、これはすごいです。フランスに行ったような雰囲気です。このランプは今人気で、ジョルディーランプと言います。フランス製。海軍がいたせいか、これは相当な値段です。ここにあるのはびっくりしま

した。また、周りの手紙が全部フランス語で書いてあったり、どっかのホテル案内がフランス語で書いてあったします。なんかここだけはフランスに行ったような気持ちです。ここではフランスの民家に行ったような雰囲気がしました。テーブルもすごく良くて民家で落ち着ける感じのお店でした。

ここを見ているときにこんなことを考えました。僕は以前大分県の竹田市に呼ばれたことがあります。

「最勝寺さん、民家専門でしょう。民家で心の病をしている人、発達障害をしている人と一緒に暮らすとすごく元気になる。なぜだろう。」と話をされたことがあります。一生懸命民家をやって、色々なことがわかりました。民家にいると心が落ち着きます。たとえば、民家は暗いと思われませんが、戸が全部開いているので、暗くしないといけません。でも戸を立ててしまうと、風が入らなくて、日本みたいに湿気が多いところではだめですね。それで庇でこう伸ばします。そうすると光は上から入ってこないで反射して入ってくるのです。いろんな光が入ってこれは穏やかです。上から光がくると、日中來ると働けという光になります。前からくる光は休みなさいという光になるのです。これは一例ですが、このように民家は心が休まるのです。そういう意味でこういう民家はあるといいな、こういう人たちを招いたらいいなと思いました。

それからもう一つ徳島県の脇町だったと思いますが、そこは漁村でした。そこではどうしてもなじめなくて、登校拒否してしまう子がいます。そこではその子たちを親ごと預かっているのです。こういう谷戸ではないですが、海も谷戸みたいなもので、似たような環境でした。もっと田舎でしたが、そういうような人たちを招き入れたらいいなと思いました。こんな健康なところはいいですから。

では次（24）に行きます。やっと尾根にいきました。尾根道が短かったので情報は少ないです。尾根道では注意が必要です。どう



いう注意かという、目線にある枝は切ってください。なぜかという、恐怖感が起きるからです。人間の世界ではなくなってしまうからです。幸い道があったとしても、目線に枝があるとちょっと怖いです。下のところを切るとこの尾根は安心して人間の世界になります。動物の世界にしたいということだったら、目線の枝を残す方法もあります。

次（25）に行ってください。クヌギにナラ、コナラですね。どちらかは冬なのでわからないですけども。おそらくコナラだと思いますか、どうしてここにコナラがあるかわかりますか。普通は照葉樹林になりますね。最初の山でも落葉樹ありました。戦後だと思

いますが、燃料としてまきが必要だったため、まきや炭に適しているコナラを人為的に植えたのです。人為的に植えると、こ



ういう落葉樹が育っていきます。

次（26）お願いします。みなさんご存知の、これ



がどんぐりです。いろんな種類があります。シイ系のものです。さっき言ったタブもそうですし、いろんな形があります。細いのとか、丸いのとか、ここは木が一緒だから同じですが、ここに小枝があります。葉っぱがあります。これはここにお子さんがあるけど、すごい楽しみになります。



27

次（27）に行ってください。こういうものが出来ます。木のかげらでこう作ったりしています。自然のものを拾ってきて楽しいおもちゃを作ったら面白いと思います。このおもちゃ作りはそれだけではないです。これ（27-01）を見て下さい。木の枝のまたです。どういうまたがいいかということをよく見ていないと探せないです。あてがわれるわけではないので、一つ

一つ覚えていくわけです。これはまちや里山で発見していくものです。これは学習的にもいいと思います。

次（28）お願いします。これはどんぐりです。これは私が作ったのではなく、森の学校という本があり



28

ます。矢野正さんが書いた本ですが、それを借用してきました。こんなきれいなのはこういう人たちがいなければなかなかできないですが、こんな風

なことができるかもしれません。

次（29）

行ってください。この谷戸の大きな弱点は川をふさいでいることです。川に行くとこういう石が取れます。石でもこんな遊びが出来ま



29

す。あるいは土があります。必ず岩相があるとそこには粘土があります。また河原でも取れます。それをこねてやるといい粘土ができて、そこに板を作って葉っぱか何かをおしてやるといいレリーフが出来ます。土と木は、あるいはどんぐりは子供の教育にはすごくいいと思います。教育というか、子供たちの遊びの体験

にはすごくいいと思います。

次（30）お願いします。これはエトワールの向かいにある

ものです。ですからこれも谷戸の先端の家です。これは谷戸再生プ



30

ロジェクトの方が買ったか借りたがわかりませんが、床をなおして壁を改装してみんなのたまり場にしたものです。呑兵衛横丁かなと思ったりしたのですが、皆で楽しく遊んでおりました。実はこれは一つの試みとしていいと思いますが、どんどん作って欲しいです。どんどんバトンタッチをしてやってもらいたいです。

皆さんさつき森の学校の話をしました。森の分校を作って欲しいです。今は森の分校を一カ所に集めて全部なくしてしまう傾向があります。そのたびにその分校がある村が死んでいきます。分校があるということは、大事なことです。子供がいていろんな行事がありますし、人のつながりも深くなります。分校を淘汰することは過疎化を進めることになります。ここでは逆に分校を作って欲しいくらいです。あるいはもしだめだったら森の塾なんてどうでしょう。先ほどの森の学校のようなことをおこなったり、いろんな散策をしたり、あるいはここに森のボランティアガイドさんなどがおられたらいいじゃないですか。子供たちがここに来れば、あと案内しますから、ここまで来てみなさいと言うのがいいと思います。

僕はこの2つを紹介したのは理由があります。それは谷戸の先端です。この谷戸の先端に今一番空き家が多くあります。なぜでしょう。すごく良くわかります

が、一番大変だからです。中心市街地から離れていて、歳をとって足腰が弱らくなったらよく分かるのですが、実はこの先端こそが一番元気です。皆さん植物を見てください。先端の芽が一番元気でしょう。ゼンマイもくるっと巻いて、ここが一番元気になります。一番先端が元気で活発なのです。逆にいうと谷戸の良さはここに表れている。一番活発で一番谷戸らしくて、一番良いところです。その良さを積極的に出すということです。例えばITというのがあります。ITはパソコンでやる商売です。良いと思いますし、便利だとわかりますが、この谷戸の良さとは無縁だと思います。ここでは不便でも使えるということだけです。

知っているなかで言いますと、ここでは料理屋さんが良いと思います。たとえばエトワールを見た瞬間何を考えたかという、宮澤賢治の「注文の多い料理店」と言いましたか、ちょっと忘れてしまいましたが、森のイメージがありました。ここで食べる料理はおいしいと思います。あるいはここで聞く音楽は雑音もなくなくていいです。あるまのまちづくりを手伝った時に土蔵があって、土蔵でレコードを聞いたことがありますが、すごく良かったです。特にここはCDではなくて、LPだとい音聞こえると思います。そんなのも良いと思います。

僕が知っている「翁」という蕎麦屋は、蕎麦屋のなかで日本一になりました。元々はうちの傍でやっていましたが、テレビで紹介されたら一気に人が多くなり、行列が嫌になって、山梨の山の中に移ってしまいました。そこで水と蕎麦は作れるからと出っっていったのですが、そこからまた岡山のほうに引っ越しました。つまり何が言いたいかというと、おいしいものがあるとそこまで来てくれるということです。逆に言いますよ、だからこそさらにおいしくなる。ちょうど良いと思いますよ。20分くらい、おなかすかせて上ってちょ

っと疲れて食事をすると良いなと思います。

次(31)お願いします。これが浦賀道です。

次(32)行きま。浦賀道に行くとちょっと上がったところに家があります。階段のつきかたを見ますと昔からあった良い旧家だなと思います。さらに上がるのかわかりませんがそんなところです。

これ(33)はその浦賀道から見た二つの景色です。下のほうに谷があります。この○(33-01)の辺が浦賀道くらい

ですね。浦賀道のところに家があります。皆さんどち





らが最初に家が建ったと思いますか。私たちはどうしても平地に家があるイメージがありますから、こう上ってくると考えます。私は上がった先にあったと思います。それは簡単な結論です。一つは浦賀道でした。これは中世の時にできました。江戸時代に保土ヶ谷から浦賀を結ぶ道です。東海道の脇間道としてできました。そういう意味では江戸時代にも近世にもありました。あったということはそこに家が建ちます。

おそらくそれも参考になり、今言えることは、この○(33-01)のほうの日当たりは良いということです。江戸時代では畑を作らないとできません。おそらく水の問題も先ほどの家を見せてもらったら4.5mが水深ですので、比較的井戸も簡単にできたような気がします。まずどうしても○(33-01)のほう日照時間は長くて日当たり良いので、環境的には上のほうがすぐれていると思います。弱点は下のほうが谷道ですから、一日、日が当たりませんが、こちらの利点としては、車が通ることです。

こういう二つの特徴を生かすというのがいいです。下に合わせて上を作るというのは無理です。上は上の良さをやったほうが良いのではないのでしょうか。家を見てください。よく見ると等高線に沿って家があると家は谷に向かって正面を向けます。家にとって一番大切なことは、日照を得ることです。ですからここはすごく風の恩恵を受けるところで、建物はすごく長生きします。もちろん谷向きのほうが日照を得られます。おそらくこういうところのほうが良いかなと思います。

次(34)に行きます。崖地です。こちらの樹幹(34-01)にテイカカズラがあります。藤原定家のお墓に生えたというので、定家カズラと言います。またこのような高い木は、9mを過ぎると私たちの手ではどうすることもできませんので、家にある方は、5mとか6mの時に切られ方がよいと思います。何故

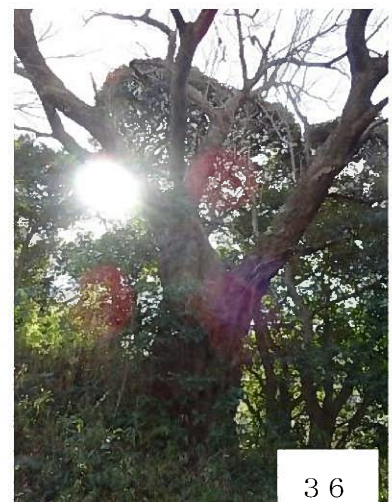
かという針葉樹と違って根がすごく張りますから、どこに倒れるかわからないですね。私たちのできる範囲は7mくらいかなと思います。その時



にまずいと思ったら切ってください。

次(35)行きましょう。ユキノシタがあります。ユキノシタというのは、やけどした時に貼りつけるといいです。僕の庭にもあり、言えるのですが、すごい薬草が多いです。森の薬屋なんかやられるといいですね。

次(36)行きましょうか。これは大島桜です。皆さんにこの良さを分かつ



てもらうために、景観のリストを作ってもらったとい

と思います。さっきの里山で崖も含めて景観リストを作ったほうが良いと思います。一枚の紙で。皆さんに紹介できるときに、皆がそれを見ればわかるように、案内する人がこれを読んで案内すれば良いと思います。どうしてもこういう知識はなかなか難しいです。私も今回山本さんに色々教わって、こういう話ができるようになりました。これだって難しいです。このままだと桜といってもソメイヨシノではないです。山桜か大島桜です。良く見ないと、木の肌かなんかでわかる人はわかりますが、もう少し葉っぱが出てこないとわかりませんので、景観リストを作っておいたほうが良いと思います。

次(37)行きましょう。ちょっと階段が一番悩み



なのでまとめています。この階段を考えてみましょう。スロープの部分が広いと自転車やバイクが通せて便利です。これだけでは狭いので、どぶのほうを一体化して通れるようにと、すごく考えています。しかしこの欠点は何かという、階段に流れた水がどぶ側に流れないんです。ですから大雨の時には水が階段に流れてしまい、この辺の足元が怖いなと思います。さっき言ったようにこういう風にするとか、もっとどこかで水の抜け道を作っておくほうが良いなと思います。そういう細かいことを考えたほうが良いのかなと思います。

次(38)行きましょうか。これは同じですね。同じですけど見てください、ちゃんと階段の水が流れますね。ですからこういう勾配にしなければいけないです。そういうことも私が言わなくても、皆さんプロで

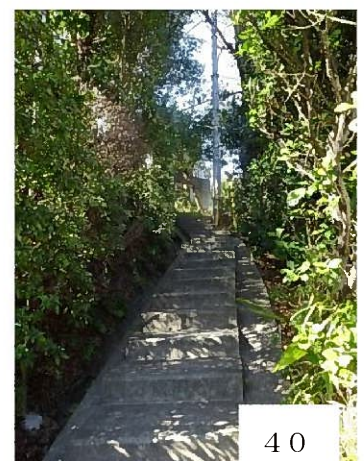
すから知っていることと思いますが、念のためということです。

次(39)行きます。これはさき程話しました。これは時間がないから割愛します。

これ(40)もそうです。これは私が一番いいと思ひまして、左はこう流してどぶになっていて、右は自転車が通れるようにしています。(38)は片側に水を流すのですが、(39)のように両側に水を流すために、こういう具合に互い違いに斜面をかえていく、山の参道の作り方の知恵を借りています。

次(41)をお願いします。これでちょうど時間になったと思いますが、これが亀の湯です。だいたい里歩きをして、最後に公衆浴場で、銭湯で浴びるといいですね。すごいです。ステンドグラス。

おそらく昭和初期と思いますが。実はお風呂をやったのは、お風呂に入るのではなくて、一番残念なのは水の系が見えないということです。みんな暗渠になった



りして。そして風呂しかないと残念な気がして。次は水の系の散策を違う谷戸で探そうかなと思っております。あるいは鳥の森とか虫の森とかやることはいっぱいあると思いますが、今日は緑の森という形でさせていただきます。

以上が私の谷戸観です。これはパネルディスカッションの時の一つの下地になるかと思ひまして、あえてまちづくりの話は少なくして、現状のものを、どうい



う風に見たらいいのかという話を、気づきの話をしました。まず何をやるかという、まず気づくことです。新しい価値を見出すことです。そこに次の未来があるからです。では以上ここで時間がきたので終わらせていただきます。皆さんありがとうございました。

最勝寺様ありがとうございました。それではここで15分間の休憩とさせていただきます。

### パネルディスカッション

[コーディネーター]

しょうじすみえ  
昌子住江さん (NPO法人 アクション追浜理事長)

[パネリスト]

さいしょうじやすひこ  
最勝寺靖彦さん (講演者)

ひろさき かつひろ  
廣崎 勝裕さん (汐入町五丁目二区町内会長)

かわい まい  
河合 麻衣さん (エトワール経営)

あべ しょうた  
阿部 将大さん (神奈川県立保健福祉大学生)



○司会 それでは、これよりパネルディスカッションを始めさせていただきます。

舞台左手は、このパネルディスカッションのコーディネーターを務めていただきます、昌子 住江様です。

関東学院大学の元教授で、専門は都市計画・まちづくりです。平成15年度より、現場に学ぶ演習で学生とともに追浜地区に関わられたそうです。空き店舗を活用した「こみゆに亭カフェ」を拠点に、平成21年にNPO法人を設立し、地域の方々とともに、まちのさまざまな資源を活かしたまちづくりに取り組んでいらっしゃいます。

平成26年度からは、関東学院大学と連携して「空き家プロジェクト」を展開しています。現在はNPO法人 アクションおっぱま理事長です。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。



パネラーは、まず、舞台右手から、先ほど講演をして頂いた最勝寺靖彦様です。

工学院大学の大学院の修士課程修了後、平成3年より月刊「住まいとでんき」編集員をされております。

平成9年からは徳島県脇町にて、文化財吉田家古民家再生活用及びまちづくりを10年行ってきたそうです。

震災復興関係として、平成23年から青森県八戸市で町の個性に合わせた魅力づくり、平成26年から福島県矢祭町で矢祭町ブランドイメージ回復ステップアップ事業を手掛けられました。

どうぞよろしくお願ひします。

次に、汐入町五丁目二区町内会長の廣崎 勝裕様です。東京で生まれましたが、昭和20年の終戦の年に、家族で横須賀市に移住し、それから70年にわたり汐入町の谷戸に住んでいらっしやいます。

地域活動については平成12年から町内会の会計、副会長を担当し、平成17年より汐入町五丁目二区町内会長を務め、現在に至ります。

どうぞよろしくお願ひいたします。

次に、汐入町にある雑貨店、エトワールを営んでいる河合 麻衣様です。

8年前に結婚を機に川崎市から横須賀市に移住されました。平成28年1月に汐入町5丁目に外国の古い雑貨とおやつのお店エトワールを開き現在にいたります。どうぞよろしくお願ひいたします。

最後に、神奈川県立保健福祉大学 阿部 将大様です。

寒川町の出身で、高校卒業後、神奈川県立保健福祉大学社会福祉学科に進学、現在大学3年生です。

高校の同級生で同じ大学に進学した友人に誘われ、平成27年4月から汐入町の谷戸地域の空き家に住み始め、現在にいたります。

どうぞよろしくお願ひいたします。

以上4名のパネリストのみなさんです。

なお、パネリストとしてご出演される予定でした、大内 小夏様は、ご家庭の事情で残念ながら出演できなくなってしまったことを、この場を借りてお伝えさせていただきます。

本日のディスカッションのテーマは「よこすか再発見～伝えよう谷戸の魅力とまちづくり～」です。ここからは、昌子様にお任せしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

○昌子氏 ご紹介いただきました昌子でございます。ディスカッションのテーマは「よこすか再発見～伝えよう谷戸の魅力とまちづくり～」。谷戸の魅力につきましては先ほどの最勝寺先生の講演でずいぶん具体的にお話しいただいたと思います。ご存知の方はご存じだったかもしれませんが、私はそれこそいくつかの大事な気づきをさせていただいたと思います。ただそういう谷戸、横須賀の環境の特色を表す場所ですが、最近空き家が増えているのはご存じのとおりだと思います。空き家の問題というのは非常に難しい、色々な要素がからんでいると思いますが、今日ここでご紹介するのは、その空き家をある意味で地域の資源、マイナスではなくて、地域の資源としてとらえて、それを地域の中でどう生かすのかというそういう試みをご紹介しつつ、新たな谷戸の魅力、谷戸の暮らしのあり方を皆様と一緒に考えていけたらと思っております。

それではまず、最初に谷戸の暮らし、良いところもありますが、先ほど階段、坂道というのを紹介されて、不便と言われているところでは。まずは暮らしている方々からそういう谷戸の暮らしの良いところを、ご紹介いただけたらと思います。

それではまず、廣崎会長からお願ひします。長いこ

と谷戸に住んでおられて、先ほどの最勝寺先生のお話しで言いますと、土の人ということになりますが、暮らしの良いところ、それともう一つとして、最近の動きとして県立福祉大学の学生さんたちがシェアハウスとして地域に住んで、地域で色々な活動をされている、そのあたりのきっかけを、それから地域での受け止め方をお話しただけだと思います。よろしく願います。

○廣崎氏 わかりました。まずあの谷戸の良いところは、先ほど最勝寺先生がきめ細かく説明がありましたが、第一に自然環境の良さです。先ほど言われた、常葉樹のほか、落葉樹が大体半分くらいあります。桜、ケヤキ、漆等そういう木々が非常に多く、春は非常にきれいな新緑になります。また秋になりますと、紅葉して非常に良い景観だとは思っています。先ほど説明がありましたように、来ていただいて散策していただくのも結構かと、非常に良い環境であります。また驚くことに野鳥が非常に増えています。これは近隣の地域の宅地開拓による影響が多々出ているのではないかと考えておりますが、ウグイスとかメジロとか、コジケ、オオジロ、ホトトギス、の野鳥が非常に多くなっています。特に春と、春から初夏にかけて、ウグイス、ホトトギスのさえずりは絶品です。3月頃から鳴いてはいるのですが、これは4月から5月にわたって来ていただければ、非常に奥深いところに行ったような、感じが受けられるのではないかと考えております。

2番目に静寂なこと。汐入は、横須賀の中心部にありながらです。非常に静かということは、先ほど説明がありましたように、谷戸の性格上、道路が突き抜けないような行き止まりになって、袋小路になっています。というのは谷あいの道1本しかない。自動車の騒音というものが全くない。そういうのがあると思いま

す。そして、山間ですから夜になりますと大体6時くらいになると静かになってしまいます。私の友人が若いときに1回泊まりに来たときに、あまりに静かで眠れなかったということがありました。それくらい物静か、とにかく最高でございます。それと夏場になりますとコオロギとか秋の虫、それらの非常にいい鳴き声が聞こえるのではないかと考えております。

それと3番目です、この山間、谷でありながら、アクセスが良いです。JR横須賀線の駅まで約10分近く、それから京浜急行の汐入駅に約10分近く、非常に便利な場所でございます。

この3つある中で、この3つが大きな良い面ではな



この谷戸の  
良いところ



いかと感じております。今写真で汐入駅横須賀駅見えていますが、約10から12・13分で着くと、それから山間の景観です。これを見てもらえるとわかると思いますが、非常に緑があります。春新緑の季節というのが非常に素晴らしいと思います。また秋も素晴らしいです。

こういう状況の中で、市の調査で横須賀市に谷戸が49カ所あるようです。そのなかで、最近横須賀市全体がそうですが、特に谷戸の少子高齢化により、空き家が非常に多くなっていることから、その49カ所の中で、先ほど説明した交通のアクセスが良いなど、3

つの条件が適った汐入五丁目二区の町内会が、平成23年に谷戸地域住環境事業ということで、計画が出されています。色々市が調査をされていて、一応うちの汐入町五丁目二区町内をモデル地区ということで指定されました。それで事業内容としては、まず一つとして県立保健福祉大学居住支援事業というのが市から発表されました。この事業が平成24年3月に具体化したしまして、平成24年10月に第1期大学生が入居することになりました。

この入居に当たりまして、男子学生と女子学生と2カ所あります。まず男子学生については市のほうから、貸家の方に対しては、補修費の補助が出て貸し家を提供してもらう。学生さんには安く入ってもらうという形をとった事業でありまして、第1期生、男子2名平成24年の10月に入りました。この2名の方は平成27年3月に卒業されまして、現在平成27年3月からここにおります、阿部君と小野君が入居されました。それから女子のほうでございますが、平成26年3月、この時期に3名の女性が入居することになりました。この3名の方は平成28年3月に卒業されていかれまして、平成28年3月に新しい2名の方。現在は男子2名、女子2名が当町内にいます。

### 大学生が 参加した 町内会活動



それで、どういうことをするかというと、学生さんが入っていることによって、谷戸地域に住民の若い方が居住する安心感、防犯防災そういう面での、若者が

いるというだけでの安心感が生まれるということがあります

### 大学生が 参加した 町内会活動



それと地域の高齢者のゴミだしの手助けを応援していただいています。それと地域活動に参加して、地域住民との交流を図っている形をとっています。特にイベントが多々あります。ちょっと回してください。これは新しく入られた大学生が町内の役員から説明を受けていて、毎月第3日曜日に資源回収をやっております。高齢者の一人住まいのお年寄りのところから、資源回収品を回収して収集場所に来ていただいていると説明を受けているところです。

次にこれは町内で毎年6月に祭りがあります。それに参加していただいている内容です。地域に溶け込んでいただいているという形をとっております。阿部君と小野君がここに写っております。毎年8月になると納涼大会というのがあります。町内全体のお母さん方、お子さん方が集まりますが、学生さんたちも参加していただき、町内のかたと一緒に飲み食いするという形をとっております。

はい次。これは1月の毎年恒例の餅つき大会をやっているところです。実際に餅をつくところです。写真の黄色いエプロン、これは私たちの町内のカラーでございます。お母さん方に交じって、この5人です、新

旧、3人卒業された方と、新しく入られた方、去年の3月に交代されましたが、去年の餅つき大会に5人揃って写真を撮りました。

そういう内容で町内の方々、若い方々との交流で

### 大学生が 参加した 町内会活動



我々も活気づいているというか、非常に元気づくような形になっていると思います。

○昌子氏 ありがとうございます。それでは実際に谷戸のシェアハウスに住んでいる阿部さん。ここに住むようになったいきさつ、また実際に住んでみてあなたが気づいた谷戸の良さを話してください。

○阿部氏 まず住み始めたきっかけですが、今一緒に住んでいる小野君から誘われたのがきっかけです。わたしは先ほど説明にあったように寒川町出身でそこから横須賀まで来るのに2時間弱かかってしまいます。ですので、大学に来るときに通学時間がもったいなかったの一人暮らしをしようと思って、県立保健福祉大学のそば、市役所の前の16号を県立保健福祉大学に進む途中、道沿いのアパートに1ルームを借りていました。一年生の夏休みのころ、小野君が結構うちに泊まるようになり、1ルームのアパートだったのですが、自分のパーソナルスペースがなくなってしまいました。

お金の話になりますが、そこが月5万円ほどかかっ

ていまして、その時はアルバイトをしていましたが、県立保健福祉大学は実習があったりすると、その時間できなくなってしまうので、その時どうしようかという不安をずっと抱えていました。僕を誘ってくれた小野君から、月1万円で住めるところがあるので、一緒に住まないかとお話をいただきました。空き家に住むということで、最初は谷戸の話がいきいありませんでした。アパートに自分のパーソナルスペースがない状態で、精神的に限界を感じて、それならば空き家をかりて自分の部屋のある空き家はすごくいいと思い、それならば一緒に見学に行こうという話になりました。見学に行ったときに、谷戸という言葉正直知らなかったです。ここはほんとに横須賀なのかというびっくりしたことを覚えています。今僕が住んでいるところは階段が200段強上がったところになります。

今社会福祉学科に通っていて、地域福祉にも興味をもっていました。谷戸という地域を見たときに、ここで生活している人たちはどのようなコミュニティをもって、どういう風に生活しているのか、その時に興味を持ちました。空き家に住む事業の中に、地域活動に参加するというのが条件の一つとしてあって、僕自身が積極的な性格でないので、何の条件もなければ地域活動に参加することも無いと思っていました。そのため空き家の事業に参加するときに、実際に自分の目で地域の活動が見られるということが良いと思い、空き家の事業に応募しました。

実際に谷戸に住んでみて良いなと思ったことをいくつか話してみたいと思います。一番に出てくるのは静かなところなんです。前まで住んでいたところは、国道16号があって窓を開けるとテレビの音が聞こえなくなるほど、また近くに共済病院があって、夜になると救急車の音があって、寝むれない時がありました。それで汐入に初めて見学にいったときに、こんなに静か

な場所が駅の近くにあるのかということに驚きました。それで、静なところの話があったのですが、ほんとに雑音がしない、車の音がしないので、なんというのでしょうか、生活にメリハリができる。学校に行っている時は音とかの中で勉強しているのですが、家に帰ると休める。自分の中で生活のオンオフができる。住んでみてよかったなと感じたところです。

あと谷戸はやはり、先ほども話にありましたが、自然がすごく多くて、四季を目で感じることができるのがいいなと思います。年間を通して緑が多くありますが、紅葉などが目で見ることができる。紅葉狩りに行かなくていいと思えるぐらいすごい紅葉を見ることができます。

良かったことですが、地域の周りの人とすごく話すようになったなと思います。アパートだと隣の人も正直誰が住んでいるか、わからない状態で挨拶することもなかったのですが、坂の下の途中に駐輪場を借りていて、そこから階段を上って自分の家まで行っているのですが、どうしても歩く時間があるので、そうすると地域の人とすれ違ったりすると向こうの人から挨拶をしてくださったり、僕から挨拶をしたり今までアパート暮らしではなかった関係性を持つことができたのがよかったかなと思います。

○昌子氏 はい、ありがとうございます。残念ながらもうお一人大内さんという県立保健福祉大学の学生さんが家庭の事情で来られないというので、阿部さんにもう少しお伺いをします。

ほかの学生さんにうらやましがられますか。私も僕もそういうところに住んでみたいという、どうしたら住めるのかと聞かれることはありますか。

○阿部氏 うらやましがられているかはわからないで

すが、やっぱり周りの人が興味をもってくれていると思います。私が住み始める前は会話に谷戸という言葉が出てくるのが一切なかったのですが、住み始めてから私から谷戸についての話を周りにすることもありますが、階段とか大変じゃないのとか結構周りの人が谷戸に興味を持ってくれることが増えたなと思います。

あとやはり家に遊びに来たがる人は結構いて、足腰が強いから上りたいと言ってくる人もいます。

あとシェアハウスのことを聞かれることが多いです。大学生だと周りにあまりシェアハウスをして人がいなく、友達と生活することはどうなのか、地域清掃に参加すること、など質問されます。

○昌子氏 ありがとうございます。それでは河合さん。先ほど講演のなかで写真が出たりして紹介されましたが、谷戸を選んで移住されて、お店を開いてそれから、今日も会場にいらっしゃいますが、お子さんを育てられているということです。まず谷戸に移住された理由と、そこに住んでみて、河合さんが実感された谷戸の良いところをお願いします。

○河合氏 私は先ほどご紹介されたように、もともと川崎市に住んでいましたが、横須賀市に移住してきました。横須賀市を選んだわけではなかったのですが、横須賀市に来たことが2回ほどしかなく、葉山のエリアで家を探していました。不動産屋に条件に合う物件というのは、古い家を自分たちで改装して住みたいと思っており、条件に合う物件は横須賀市にたくさんあると、どちらかという促されて横須賀市に住むことになりました。

横須賀市に住んで、実際自宅まで200段の階段を上って行かないと着かないので、皆さんのお話と重複し



てしまいますが、静かな環境で、鳥の声とか、自宅の裏が竹藪のようになっていて、竹が風で揺れる音を日常で聞くようになっていて、ずっと音楽をかけっぱなしのような生活をしていましたが、音楽を聞かない、風とか鳥の音を聞くような生活になりました。

仕事をしていましたが、現実と、日常生活とかけ離れたような、ちょっと大きさですが、仕事に行きたくなくなるような居心地の良さを感じておりました。自宅の前がずっと開けていて、軍港が見渡せますが、自宅の前から見る夜景がとてもきれいです。空気がきれいということも先ほどもおっしゃっていましたが、川崎市は光化学スモック警報が流れるほどの空気なので、横須賀市の空気はきれいだなと、深呼吸をしたくなるような空気です。

山の上ですが、階段を下りると公園があって、スーパーがある環境なので、特に生活で不便を感じることは何もなく、電車も二つの路線を利用できるので、横浜や川崎に出ることは結構ありますが、そこで苦を感じることはなく、とても住みやすいなと感じております。先ほどご紹介いただいたきましたが、2015年12月にお菓子の店エトワールというお店を開店しました。それについてはまた後程話をさせていただきます。

○昌子氏 はいありがとうございます。それではずっと谷戸の良いところをお話しいただきましたが、そうは言っても谷戸の不便なところが、今日ご登壇の若い方にとっては、階段200段もそれほど苦にならないかもしれませんが、だんだん歳を重ねてくるとその辺りが大変になってきます。

そうはいつでもなかなか不便があるという、これについてどう対応しているか、これについてもまず、廣崎会長からお願いいたします。

○廣崎氏 一番苦労しておるなと思われるのは、うちの町内も高齢化しております。階段が非常に多いと、一番の問題点というのは買い物。これはさっきの写真にもあったように、以前は商店がありました。八百屋があり、魚屋があり、見ていただいたように酒屋さんが一店だけ今残っています。あの狭い中に、スーパーもありました。そこで当面の買い物は済ますというわけですが、最近では汐入の大通りにも、その小売店がなくなってしまいました。

ですから日常使う野菜や魚、これのものを大手スーパーのイオンさんに行かないと買えないというのが実態であります。それで最近では上り下りが、若い当時は1日2回、3回できたのですが、1日1回がやつの生活になりつつあると思います。

それで、最近では生協さん配達をしていただいたり、イオンさんである程度まとめて買うと配達してくれたり、というようなものを利用しつつあるという状況になっています。実際に買う立場からすると、現物を見て買うというのが昔の我々の時代の慣習で、現場に行って見て買うというものが多いです。ただこれも、やはりだんだん歳をとりますと、最近では生協さんが行き渡っていますが、書類の上で見て申し込んで買うという形になります。その解消法としてはそういう形になっていくのではないかと思います。

それとあと、比較的山のでっぺんまで舗装されています。これは下水、水洗便所を整備するようになり、市が山のほうから水洗化していきました。その時道路が補修されてよくきれいになっていったと思っております。あと手すりですが、主要なところはついております。国有地市有地についてはほぼ取り付けてもらえる形になってはいますが、個人の土地となるとなかなか難しい問題となっています。周りの人たちと協力しあ

いながら、市の補助金で手すりをつけることを進められております。

○昌子氏 ありがとうございます。そのあたりの生活の不便にシェアハウスの学生さんたちの地域ではコミュニティ活動中がかかわっていることはあるのでしょうか。あるいは今後、どうしたいということがあればお話してください。

○阿部氏 今やっていることとしては、地域の人のゴミ出しをやっています。私たちの住んでいる家の傍にすごく足の悪い人がいて、その方とうちが大体同じくらいの高さにあります。ゴミ出し場にいくまでに階段を何十段か下りなくてははいけないということがあります。私たちみたいに若い方や、健全な方ならいいですが、どうしても足とかを怪我している方たちだと、ゴミを出すことが大変なことになっています。

そのため、毎朝家の前にゴミを出していただいて、私たちが順番で、特に学校に行くときなどに私たちのゴミと一緒にゴミ捨て場まで持っていきます。この活動を今までずっとやってきましたが、実はその方が先日怪我をしまい、娘さんの家で生活をするようになり、現在はその家は誰も住んでいない状況になっています。ここ何日はそのゴミ捨てを行っていない状況です。

それと私と小野君の方で何かしたいという気持ちはありますが、近所の地域の中だけでも高齢な方は結構いますので、買い物で自分たちが行くときに、その方々に聞いて買いに行くことも、やろうと思えばできると思います。ただ、それをやった場合、私たちがそれを手伝うことで、その方々が、家から出なくなってしまう、それによって歩くことが少なくなってしまう、負の連鎖として体の能力が落ちてしまう。

そのようなことも考えなくてははいけないと話していると、どうしても具体的にやってみるといことになかなか進めない状況です。

これからやりたいこととして、私たちから発信することもいいのですが、周りで住んでいる方が、実際に手伝って欲しいを言ってもらえるような状況を作れたら、活動としてはやりやすいと思っております。

○昌子氏 はい、ありがとうございます。廣崎さん、今こういう話ができましたがどうですか。

○廣崎氏 周りの方が積極的にお願いするというのはわかりますが、我々の時代の人たちは、わりかし自分自身でやるというのが強いんです。遠慮してしまいます。もっとその辺は町内にしても頼むような形に持っていければと思っております。確かに自分でやる、頑張るとい人が多いです。

○昌子氏 今後考えていくような点かもしれません。

○廣崎氏 せっかく若い方が傍におられるわけですから、お願いするような形に持っていきたいと思います。

○昌子氏 それでは河合さん、ここでお店の話と、子育てについて良かった点と問題点についてお願いします。

○河合氏 先に子育ての話をしたと思います。子育てについては苦勞したことが思い当たらないくらい、子育てにおいてはメリットが多いと感じます。一番は毎日階段を200段上ったり下りたりしていくなかで、息子が6歳になったばかりですが、5歳の時に散歩で三崎口まで歩けるくらいの体力がついており、体力も

ほかのお友達と比べてずいぶんあると感じます。



自然を身近に感じているので、鳥とか花とかの名前を図鑑で調べてよく知っていると思います。谷戸に住んでいるからなのかと感じます。

近所の人たちとの関係が非常に近いので、子供が少ないということもあるのですが、自分の孫のようにかわいがってくれているので、本当に恵まれていると感じます。

問題点があるとすれば、ベビーカーの使用が厳しいというところです。うちは一人っ子なのでベビーカーは一切使わず、抱っこひもで乗り越えましたが、家族構成によってはベビーカーを使用する家庭は厳しいと感じます。スロープもありますが、小さい子には急なスロープで上ったり下ったりするのは危険だと思います。

店の経営ですが、場所が場所なので私自身もあのような場所にお店があるのを見たことがなかったので、半ば実験のような感じで、あのような場所でお店をやっていたら面白いだろうという気持ちだけで進めてきました。やはり周囲の人は、あのような場所でお店を始めても誰も来ないとか、一日に一人来ればいいという意見がほとんどでしたが、やってみないとわからないという気持ちでやってみました。

オープンにはチラシを配らせていただき、また、朝

日新聞に取材され、その記事を掲載していただいたおかげで、想像より多くの人に来ていただきました。最初は週に1回火曜のみの営業でしたが、現在は週に2回、火曜日と水曜日に営業しております。

やはり場所が場所ということもあり、天候によっても集客が左右されてしまい、普通の場所でお店をやっているのとでは大分利益の面で違ってくると感じております。今後お店を継続するうえで、どういうやり方を考えていかなければならないというのが、今後の課題としてあります。

○昌子氏 はいありがとうございます。お店も最勝寺先生がいらっしゃったときは、高齢な方を中心にかなり来られていたとおっしゃっていましたが、もうかなり常連になってこられる方がいらっしゃいますか。

○河合氏 近所のお客様はほぼ毎週いらっしゃってくれますし、火曜・水曜に来てくれるお客様もいます。

○昌子氏 それから子育てについてですが、今は保育園ですか。

○河合氏 幼稚園です。

○昌子氏 遊び友達、おうちの近所の遊び友達がいらっしゃいますか。そのあたりの問題はありますか。

○河合氏 同じ山と言いますか、100メートルくらいのところに一人いましたが、家を買って引っ越してしまい、今はほとんどいないような状況で、近所で遊ぶ人はいません。でもたまに幼稚園の友達が遊びに来てくれると、すごく生き生きして山を駆け回って遊んでいます。車が入って来ませんが、崖から落ちる心配は

あります。交通事故に合うという心配はないので、親はいつもより目を光らせる心配はなく、大きな良いところだと思います。

○昌子氏 はいありがとうございます。それでは今までの話をお聞きになって、最勝寺先生どうぞ自由にコメントをお願いします。

○最勝寺氏 そうですね。まずお困りのことも多いと思います。それから今頑張ってもこれからだんだん、買い物に行きづらいつとあるでしょうが、まず言えることは条件が様々だということです。人によってはゴミ出し、買い物がしにくいとかあって、それを発信してもらって、それをシステム化することだが大事だと思います。

まだ話が詰まってないのでこれくらいにして、また気がついたらお話ししたいと思います。なにしろITで、例えばインターネットで買い物ができますし、色々でき、そのことも大事ですが、それも含めてどうしたらいいのだろうか。たとえばここに聞けば誰かが来て買い物に行ってくれるような場合、色々なシステムが考えられます。今は悩みを出す段階だと思います。色々な案が出た段階でどうしようかとシステムを考える時期に来ているのかなと思います。谷戸の人と集まって何に悩んでいるのと話を出すことが大事だと思います。

○昌子氏 ありがとうございます。先ほどの廣崎会長のお話もこらからの買い物の問題について考えていく段階だとお話しがありましたので、そこら辺が共通するところだと思います。里の魅力もいろんな課題もお話が出てまいりましたが、ここに人が住み続けていくうえで、空き家も増えていくなか、新しい人が住み、

若い人が住んでいくという期待があるわけですが、こうすればもっと谷戸に住みたくなるという、特に若い方から提案があれば、これからは少し積極的に谷戸暮らしを呼びかけていくためにどんなことができるか提案をいただきたいと思います。それでは今回は河合さんからこうしたらもっと魅力的に住めるような提案があったらお願いします。

○河合氏 今若い人たちの間で、古い家を自分たちの手で直しながら、住みたいという価値観を持っている方がたくさんいるなど感じていて、セルフリノベーションをできますよと、わかり易くアピールしてありますと、そこに食いついてくる若い世代もいると思います。店舗として借りている物件が、床をすべて無垢材で張り替えていて、壁を白く塗ってありました。その点が借りる上で大きなポイントになりました。全部自分たちの手で直すということはお金も時間もかかりますので、少しでも手が加えてあると住みやすいのではないかと思います。

○昌子氏 今のお店で具体的にここに手を加えたというところがあったら紹介してくれますか。工夫をした点があったら教えてください。



○河合氏 文字の書いてある黒い蓋がありますが、そ

ういうものを自分で制作して貼り付けました。まら、二つの壁を珪藻土で塗りました。それくらいで、それほど大きなリノベーションはしていません。

○昌子氏 珪藻土で塗られてということは効果としてはどのようなことがあげられますか。

○河合氏 湿気が心配だったので、少しでも湿気を吸い取ってくれるような壁、壁と言うか塗料を探していて珪藻土になりました。古いものと合うなという感じですか。

○昌子氏 湿気をとるということと全体の雰囲気がよくなくなったということですね。はいありがとうございます。じゃあ阿部さん、周りに関心を持つ人が増え、谷戸という言葉もでるようになったということだけでも、もっとPRするうえで、ご提案はありますでしょうか。

○阿部氏 PRするうえで、そこに住むメリットを提示できるようなことが必要だと思います。

ぼくが挙げたのは静かなことと、自然がいっぱいある。でも駅には近い。これを聞くととても魅力的だと思います。

だからやっぱり、若い人というと谷戸というものを知らないということがあります。メディアとかでも、谷戸というものは扱われないと思います。何回か新聞社の取材を受けさせていただきましたが、やはりいつも空き家というところに焦点があって、谷戸というものに対する質問はどうしても少ないことはよくあります。いい条件のところに住もうと思ったら結果的に谷戸だった。ぼくとしては若い人が集まりやすくなるのではないかと思います。谷戸を押しではなく、いい

メリットの点を、その中でもすごく静かという点を押しの方が良いと思います。僕は住む前にも少し感じましたが、多くの人はそのようなメリットを住んでみないと感じにくいと思うので、例えば試しに一泊とかできるような家があるのであれば、すごく人と集まりやすいのではないかなと思っております。

そういう試みを始めてみればメディアとかにかとりあげてもらったり、あと若い人だとインターネットとか、SNSとか、情報を手にいれる手段がネット環境になっているのでフェイスブックとかネットで情報を流す方法があるのかなと思います。

あと谷戸の情報を横須賀と全然関係ない人に伝えても難しいと思います。例えば横須賀にある企業にそういうのがあると紹介していただく方が、また、今横須賀で働いていて横須賀に住んでいないの方が、横須賀に住みやすいのではないかと考えることがあります。できるだけ横須賀に住む可能性のある人、横須賀に住むメリットのある人を対象にPRしていくのも有効ではないかと感じます。

○昌子氏 ありがとうございます。廣崎さん若い人からこういう意見が出てきましたがいかがでしょうか。

○廣崎氏 言れることはもっともなのですが、宣伝、ラジオ、テレビそれからテレビや新聞の取材に空き家対策の問題が色々取り上げられており、そのことによって見直して、今若い人が、空き家を買われるということも増えてきております。なぜ買われたかというと景観ですね。やはり非常にいい場所、海が見える場所。あるいは緑が多い、そのような内容で買われたと聞いています。ここのところ3・4件そのような話をお聞きしております。

それでやはり一番個人として感じることは、今若い人が自動車離れてしており、駐車場が必要ないのですね。山の上ですと駐車場を借りなくてはならない。これが一番大きな経費の問題で引っかかってくると思います。

ただ、住む環境としては子育てだとしても最高の場所だと感じております。先ほど少し出ましたようにお子さんの足が丈夫になりました。我々子供のころは、運動会では山の子供たちはみんな足が早かったものです。上り下りやっていると自然に足が速くなりました。お年寄りの方たちも若いときから上り下りしておりますから、一般の下に住む方たちよりはっきり言って丈夫です。毎日上り下りしなくてはならない生活をしているわけで、そういう環境にあります。だから、私どもの子供、今は私達の子供も出でていて他に住んでいますが、その孫というような形で継続して住めるような形にバトンタッチしていければいいのではないかなと思います。

もう一つは先ほどからでています、環境がよく、なおかつアクセスのいい生活、これをもっともって不動産の方たちが宣伝していただいて、都会の騒音の中から静かなところに移れるようにPRしていただけたらいいかなと思います。空き家の場所によって非常に良い場所がございます。家主さんの方もPRには環境をもっともって売り出していったらいいかなと思います。

○昌子氏 ありがとうございます。それでは少し私がかかわっております、追浜での空き家活用の事例をパワーポイントで見ていただきたいと思います。

これは関東学院大学の建築系の学科です。研究室の先生と学生です。それから所有者の方、地元の自治会と私どものNPO法人がかかわりまして、最初シェア

空き家プロジェクト(追浜) 関東学院大学+所有者+地元自治会+NPO法人



I シェアハウス  
立地・概況

ハウスを作りました。

場所等詳細はないのですが、追浜町2丁目というところです。写真の真ん中左にある白い家、ここが改修したところです。中はそれほど痛んでおりませんでした。やはり水回りが傷んでおりました。改修については地元、追浜にある工務店、それから研究室の、学生も実習という形でかかわることになりました。



リノベーション  
改築も実習で

写真をたくさん貼っていて恐縮です。まずこの真ん中の道の狭い階段上である、狭い車が入らないというので、材料を人力で持ち上げます。

さきほどちょっとお伺いしておりましたら、昔はこういうのを担ぎ上げる専門の方がいらっしゃいましたということです。学生が実習の中で、工務店さんから指導を受けて床の貼り方を学んでいるのもあります。

このような高台に建っているので非常に眺めがいい。ここは学生が来て眺めが良いととびっくりされています。

す。それを活かすように、ここに木でベランダ造ると



完成！ お披露目会



いうことをいたしました。

それで先ほどのベランダが完成しました。水回りもきれいになりまして、テーブルもこのような形で、色々な切れ端を活用して出来上がったということでお披露目会をやりました。

ここでもやはり安く住めるのですが、ただ安く住むのではなくて、住むのだったら地域の活動をするというにしています。シェアハウスは2名しか住めないんですが、このかかわった学生たちが、お祭りとか色々

## Ⅱ コミュニティスペース+空き家プロジェクト拠点

関東学院大学+所有者+地元自治会+NPO法人



な町内の活動に加わっております。

次お願いします。これは2件目の事例で、追浜南町というところですが、ちょうど下の写真のところに見える階段を上がってこの家になります。ここからの眺望の写真はないですが、展望がひらけているところで、

平屋です。

ここはどういう風に改修するかというと、他の空き家も含めてプレゼンの形をとっています。これももちろん、所有者の方、地元の自治会の方と色々協議して、最終的に設計案を決めた。

ここはさっきありました、シェアハウスではなく、狭いということもありましたので、コミュニティスペース、プラス大学の方の教育、地域の拠点にするということにしました。



実習の様子 土台も屋根も

ここはかなり傷んでおりました。土台、床から、屋根まで手を入れるということになりました。これも工務店さんの方々の、気仙大工の方に指導していただきました。気仙大工というのはそれまで知らなかったのですが、気仙とは気仙沼、気仙地方の大工さんということです。気仙大工は非常に技術が高いということで、全国的に有名だそうです。

気仙大工の方が一人が金沢八景の工務店にいらっしゃるということで、その方の指導を受けて、それこそ釘一本打てなかったのが、釘はもちろん工具の使い方を覚えた先生がおっしゃいました。

実習ですので毎日ということではありません。授業のある時は、週に1回2回、休みのときは少しまとめていくという形で改修いたします。

次お願いします。一応は出来上がりましたが、一応完成というのは2015年度で、実は次の2016年度も改

修を進めています。ということで使いながら手をいれている形でやっています、それで、一応完成という時のお披露目をこんな風に進めました。



一応の完成（2015年度）

使いながら改修を継続（2016年度）



この写真は七夕ですね。七夕飾りを、ここには映っていませんが、子供さんと呼んでいわゆる昔の遊びを体験していただくとか、そのような形で行いました。

小さな岩穴がありますが、最近よくあります、竹の中にライトを入れて映すというものです。これは鎌倉のアーティストの方にもって来ていただいています。

ひとまず学生手作りの創作ということで、地域の方と使いながら、さらに使い方を色々検討しながら考えていくというのが、2件目の空き家です。

そのような形ですすめているケースがあるということで、先ほど、お試し一泊というのがありましたが、それはいいなど、そんなようにちょっと使えないかなと、関東学院で提案してみようかなと思いました。はいありがとうございます。

○昌子氏 谷戸、住み続けるために、どんなことが必要ですか。先ほどの不便な条件をなんとか、それこそ地域の方で問題点を出し合って、というような試みが必要と話がありました。

住み続けるために何かが必要だということをお話しいただければと思います。廣崎会長、先ほど、働くところがないということがありましたが、その辺はどう

でしょうか。

○廣崎氏 昔は横須賀、軍港、海軍の町で私たちの谷戸も相当数住んでおりました。大体400から500人くらいですね。いまは200人とかで昔に比べ半分くらいです。

完全な少子高齢化で、今戸数のだいたい、敬老の日でわかるのですが、75歳以上で100名くらいになると思います。75歳以上ですよ。60歳以上にすると、もっと多くなると思います。

そういう中で、その子供さんたちはどこに行ってしまったかというところが多いです。それで祭礼とか納涼会とか餅つきの際に、外孫が集まって賑やかになります。ただし、地元には住んでいない。というのは、職住近接といいますが、住む場所が職場にくっついて行ってしまうことだと思いますね。ですから職場に近いところへ移ってしまいます。というところうちの町内に住んでいる高齢者の方たちはおじいちゃん、おばあちゃんが多いということですね。

それで新しく入ってこられる方々に、景観、樹木は先ほど説明がありましたように、非常にいい環境というのを理解してもらう。先ほどありましたように宿泊をやってみるというのがありましたように、そういうことも必要かもしれません。もっとPRをしなければいけないのかなと思います。

シェアハウスの学生さんたちは、はっきりいって、本当によく地域に馴染んでやっていただいております。実はうちの町内には約10名位の方が住みこんでいるシェアハウスがあります。この方たちはあまり地域に溶け込まない方たちで、非常に困っています。外人さんを含めマイペースな方たちが多いです。

シェアハウスを活用する場合は、地域に必ず溶け込



んでいただけるような形にもっていかなければいけないと思っております。その場合は家主の方とよく折衝する、あるいは不動産の方たちと折衝するということをししないと、シェアハウスが増えていっても町内としては困る面が出てきます。ゴミ一つにしてもそうです。うちの町内も苦勞しています。ただし市が行っている学生援助でも、もっともっと続けて、各谷戸に展開していった欲しいというのがあります。

○昌子氏 ありがとうございます。シェアハウスにしても地域に溶け込まないというのはなかなか困った話ですね。空き家の活用とはいえ地域と連携が必要というあたりの課題ですね。

○廣崎氏 シェアハウスは出来たときにきっちりルールを決めないといけないのではないかと思います。

○昌子氏 ありがとうございます。ではこの谷戸に住み続けて働く場もある、河合さんにお尋ねします。今お店は週2日開いていて、それでもなかなか大変なところもあるという話でしたが、いわゆるプチ起業といえますか、大きく企業を起こすというわけではなんですが、出来る範囲でお店や仕事をやっていこうという動き、色々な形であるよう思います。河合さんの場合は、これから続けていくときに、どのあたりが課題か、それから他の方が、ここで住みながら出来ることをやっていこうとした場合に、その方へのアドバイスがありましたら、お願いします。

○河合氏 今昌子さんがおっしゃったように、私以外にも空き家を活用して、何かをしてくれる若い人は増えないかとまさに思っております。

お店に来てくれるお客様の中で、若い人たちが想像

以上に階段を苦にされています。こんな場所だという感想が一番多いですが、たまにすごくいい場所で、こんな場所で何かしたいとか、住みたいなどという感想をいただくことがありまして、そのような可能性はゼロではないと感じております。

通常のお店のように週に5日開けるとするのは厳しいと思います。ほかの仕事を持ちながらなど、条件は限られてくるかとは思いますが、何かお店とか活動とかしてくれる人が増えると、相乗効果でお客様にもいられちゃっていただけたらと思います。お客様がたくさんいらちゃってくださると、横須賀の山が面白いということになって、注目を浴びるのではないかと、そういうアプローチの仕方から注目して欲しいなという思いがあります。そのなかで、もともと住んでいる近隣の方々の配慮や、知らない人が増えると思いますので、セキュリティーというか安全面とかそういうところには配慮していきたいとも思います

○昌子氏 ありがとうございます。プチ起業に、大勢が、ワッと押し寄せるのではなくて、ここの良さを楽しむ人たちが、徐々に増えていくという感じをかんがえているのですかね。

○河合氏 そうですね

○昌子氏 ありがとうございます。では阿部さん。この活動というだけではなく、一般的に考えて、ここに若い人たちが住み続けるために、何が必要か、どんな条件があったらいいか、あるいはここでどんなことができる可能性があるだろうか、お考えがあれば、お願いします。

○阿部氏 空き家について僕が住み始めたときに、周

囲の方たちとか地域の方たちが、すごく優しく迎えてくれて、今でも親身になって、挨拶してくれたり仲良くしてくれています。外から来て住むというのは、周りの目がとても重要度高いと感じることが多いです。

僕たちの空き家事業が周りから理解されているというのは、今の家に住んで僕たちは2代目ですが、1代目の先輩たちが、周囲の人たちとしっかりと信頼関係を作ってくれたというのが、とても大きいと思っています。僕たちもその関係を壊さないように、より発展していけるようにしたいと思います。たぶんその関係性が深くなることで、谷戸で生活していくことでの新しい問題が見えてきて、学生ができることというのがわかってくると思います。

僕たちは今の家に定住することはできません。卒業したらまた新しい場所に行かなければならないので、新しく入ってくる後輩たちのためにも、地域の方々と関係をより深めていけたら、また出来ることととも見つかってくるのかなと考えています。本当に地域の方というのが何もよりも大事だと思いますか、自分たちがそこで生活していくことと同じくらい、地域の方からどう見られているか、考えなくてはいけないなど感じていますね。

○昌子氏 それが後輩たちに伝えたい一番大事なことになるんですか。

○阿部氏 そうですね。地域でゴミ出しとかいう活動ももちろん大事ですが、日頃の挨拶や、すごく仲良くするというわけではないですが、アパートの生活ではないようなことが体験できるというのは、良いことだと思います。住宅街というか、周りに住宅がある状況空き家で、普通の一軒家に住むことはアパートだと気付けなことを学べると思います。空き家に住むとい

うことから、いいことを学んでほしいなと思っています。

○昌子氏 ありがとうございます。では時間も迫ってきておりますので、最後に最勝寺さんどうぞまとめのようになりますが、お願いします。

○最勝寺氏 今お話を聞くと、谷戸の姿を一口では言えませんよね。すごく多様です。住んでいる方のお話を聞くとさらに多様です。そんな時にこのまちに住みたいとか、どうすればいいのか、おそらくまず大事なことはこの谷戸の良さを知ってもらうことだと思います。多様性を知ってもらうことだと思います。

例えば、わたしは大声出したいし、そうしたらどこがいいだろうねと言っても、どこがいいのかわからないですよ。行って見ないとわからないです。では、そんな積極的な人ばかりいるかと言えば、そうとは限りません。ほかのまちに行ってしまうかもしれませんし、他のところがいいかもしれません。

積極的に谷戸の方々が体験メニューを作るべきだと思います。またどこがいいのか、自分になにがあるのか、色々なことを探し出せるといいですね。

例えば、先ほど言ったようにセリやなんかのとれますので、七草粥を食べる会だとか、年中行事でお花見をしましょうとか、あるいは森の学校を作りましょうとかもあるでしょう。あるいはここでマラソンをしましょうということだってあるでしょう。さまざまなことができます。

さっき言ったようにここに一泊しましょう、ボランティアガイドを育てましょうといったようなメニューを作って、何しろここにきてもらわなければいけません。先ほど言ったように年寄りの暮らしかたと若い方の暮らしかたと、平地と違って極端に違います。そう

すると私は平地より谷地より、山のほうがいいのよと言う人もいます。そうしたら山のなにかいいのかという情報をしっかりさせておかななくてはなりません。今度はお呼びした以上は谷戸の多様な空間や景色と言った、メニューを作っておかなければなりません。料理屋さんのように、メニューを作っておかなければなりませんよね。そういう準備をしないではいけませんと思います。

もう一つ大事なことは、先ほど話をして、たとえば若い人でも、あるいは40歳位の人が入ってきたとしても、いずれ70歳にはなってしまうわけです。そうした時に買い物が大変になると思います。そうなったときは下に降りてくれば良いと思います。これは持ち家では難しいですね。ですから積極的に賃貸住宅をこれからは考えていったほうが良いと思いますね。その年齢にあった、例えば子供の教育にいいよといった時のために、子供の教育というのは、小学校のことかもしれない。中学校になると受験勉強が激戦となってくるから、都会に行きたいかもしれない。その時は引っ越ししなくてははいけません。そうするといつも移動できるような住まい方が谷戸の中で必要になるかもしれません。

歳をとったら下にあって、若い子は上に行くシステムがあったほうが良いよという考えもありますが、これは持ち家ではできませんので、賃貸契約も考えていかなければいけません。まずそれよりも、さっきプチお店を作るとか、住み方も様々です。まず体験メニューをすることが大事です。

それで、講演の際にスライドでお見せしたように、皆さんを案内していただくということが大事です。そうするとその良さが実感としてわかります。それが重要です。これには行政もさうとう頑張っていたかかないといけません。それから地元の人たちからメニュー

の中身を告知していただく。そのバトンタッチをする。以上です。

○昌子氏 ありがとうございます。最後にまさに今日のテーマ、「伝えよう 谷戸の魅力とまちづくり」というところ集約していただきました。ここはやはり出発点だという話をしていたらどうかと思います。

せっかくの機会ですので、会場の方からご質問いただきたいと思います。ご質問ご意見のある方は手を挙げて。じゃあ、事務局の方お願いします。

○観客A 同じく汐入町5丁目の谷戸に住んでいるものですが、福祉大学の学生さん、今日は一人で頑張っていたかありがとうございます。同じ町内と言うか隣ですが、結婚して一生住みたいでしょうか。

○阿部氏 住めるなら住みたいです。ただ谷戸に引っ越すときに不安なことはどうしてもあって、例えば、谷戸は汐入地区の場合、道が一本ですね。地震とか起きて、土砂崩れが起きたりしたら、行きようがないです。車とか持っていてもしようもならないなと思ったり、周りの方が高齢化していると、このまあいって周りに誰も住まなかったら、本当に自分たち一人に、一軒になっちゃうなと思ったりします。

そこで定住するようになるにはデメリットよりメリットが初めて上回った時に、じゃあ住もうと思えると思います。生活するうえでの環境は本当にいいと思います。

やはり自分が高齢者になったときにあの階段を登れるかな。いまは運動代わりに上っていますが、これが、70歳、80歳になって、もしくは、若いときでも、自分が足をねん挫した場合は、ここをのぼれないなど正直思うことはあります。そういうのを解決、問題が改善されていいたら、より住みたいと思えるなど思い

ます。生活するうえでは今現在不満なく生活している  
と思えています。いい場所です。

○観客A ありがとうございます。

○昌子氏 他に質問ご意見おありでしたら、はいどうぞ。

○観客B 2009年に汐入町5丁目の廣崎会長の地区  
にきました、音楽サークルの事務所をやっているもの  
です。そこに住むきっかけになったのは、車が入って  
こないのが、中古住宅がめちゃくちゃ安いんですね。土  
地が安い、建物を実際新築で建てるとすると、平地よ  
りも価格が非常に高くなりますが、築20年以上たっ  
ているとほとんど土地代ということで、本当に格安な  
値段で知り合いが買ってくれて、音楽事務所に提供し  
てくれました。

若い方が、今新築の戸建てで子育てというとかなり  
の金額で住まなくてはならないので、それが、本当に  
月々家賃より安く住めるのではないかなと実感してお  
ります。階段の上り下りで近所の人たちと挨拶するの  
で、地域にすごく溶け込みやすく、先に住んでいる  
方たちもあたたかく町に迎えてくれているので、今日  
もこうして近所の方々と、ここに来ることは知らな  
かったのですが、階段のところでお会いして、こうして  
色々お話をするというのは、平地ではなかなかできな  
いことだと思います。子供がいるとその地域に溶け込  
むというのは本当に大変なことだと思いますが、階段  
での皆さんとの挨拶で、皆さんに溶け込みやすいと実  
感しております。

本当に静かで空気がきれいで、それなのに駅に10  
分足らずで行けて、買い物もできて、冬は家に着いた  
時には歩いて帰ってきているので、体がぽかぽか暖か

くてすごく便利なところだなと思っておりますので、  
多くの人たちにこのまちの良さと、町会でのまとまり  
と暖かさを伝えていけたらなと思っております。

最近エトワールさんが出来て本当に癒しの異空間が  
出来て、本当に楽しみにしています。なかなか行けて  
いなかったのですが、何とか時間を作っていきたく  
思います。取り留めもなかったのですが、住んだ実感  
を話させていただきました。ありがとうございました。

○昌子氏 ありがとうございます。谷戸の魅力という  
ことですね。時間迫っておりますので、もう一方おあ  
りでしたら、はいどうぞ。

○観客C エトワールさんにちょっとお聞きしたいの  
ですが、週1回から2回お店を開くことになったとい  
うことですが、そうするとなかなか経営は厳しいので  
はないかと思います。どうして週2日にしたのでしょ  
うか。1週間に半分くらい開いて、開いている時間は  
お仲間とか地域の方で協力できる方がいて、行けば何  
か食べられる、やすらぎが得られるという形でやった  
ほうが経営的にはよいのではないのでしょうか。

○河合氏 そうですね。週に2回の営業で、もうちょ  
っと営業日を増やそうと検討してみたこともあるので  
すが、お店が飲食店という形態ではなくて、手続上の  
問題で保健所の許可が下りていないので、小売店とい  
う形で営業しています。売っているものも100%自分  
で作っているわけではなくて、パン屋さんから卸して  
もらっていたり、お弁当はどぶ板通りにあるカフェに  
卸してもらっている状態です。リスクが高いと言いま  
すか、全部商品が売れないと、赤字になるので、営業  
日を増やして赤字になるのを恐れていて、他の日は他  
の仕事をした方が確実だなと思ってやっています。も

う少し色々な活用をした方がいいなとずっと思っていますが、そこまで行動できないまま現状来ています。オープンをして1年を過ぎたので、息子も小学校にあがるので時間も長くとれるので、そういうことも本当に検討していきたいと思います。ありがとうございます。

○昌子氏 ありがとうございます。どうぞ、よろしいですか。まだ色々と可能性もあると思います。それでは時間になりました。パネルディスカッション「よこすか再発見～伝えよう谷戸の魅力とまちづくり～」ということでお話をしてきました。ご参考になれば、ありがとうございます。

○司会 ありがとうございます。今一度大きな拍手をお願いします。これで本日のプログラムはすべて終了しました。長時間にわたりご参加いただき誠にありがとうございました。お帰りの際にはお忘れ物のないようお願いします。

# よこすか都市景観協議会

## 【会員】9団体

- 一般社団法人 神奈川県建築士会横須賀支部
- 一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会横須賀支部
- ミーズ設計連合協同組合
- 公益社団法人 神奈川県宅地建物取引業協会横須賀三浦支部
- 公益社団法人 全日本不動産協会神奈川県本部横須賀支部
- 横須賀建設業関連団体協議会
- ・一般社団法人 横須賀建設業協会
- ・横須賀建工同志会協同組合
- ・一般社団法人 横須賀三浦建設協会
- ・横須賀電気工事協同組合
- ・横須賀管工事協同組合
- ・横須賀緑化造園協同組合
- ・横須賀三浦塗装工業協同組合
- ・横須賀内装事業協同組合
- ・測新会
- 公益社団法人 横須賀青年会議所
- 横須賀商工会議所
- 横須賀市

## 【オブザーバー会員】4団体

- 神奈川県横須賀土木事務所
- 東京ガス株式会社横浜支店
- 東京電力パワーグリッド株式会社藤沢支社
- 東芝ライテック株式会社横須賀事業所

[順不同]

## <事務局>

横須賀市都市部市街地整備景観課  
〒238-8550 横須賀市小川町 11番地  
TEL:046-822-8377 FAX:046-826-0420